

## 肺結核早期診断ニツイテ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/38426">http://hdl.handle.net/2297/38426</a>

## ○肺結核早期診斷ニツイテ

特別會員 米村吉太郎

(澤金)

肺結核治療法ニ就テ諸大家ノ腦漿ヲ搾リ臥薪ノ勞ヲ採ラレタルコト玆ニ幾千年ノ久シキヲ知ラズ大古ニ於ケル醫聖「ヒップラテース、アレテーウス」ヨリ近世ニ於ケル「コッポ」氏ニ至ルモ尙ホ特效藥ヲ發見スルコト能ハズ然ルニ「ブレーメル」氏「シレユジエン」ノ一寒村「ゲルベルスドルフ」ヨリ奮然身ヲ起シテ肺勞ハ治癒スルヲ得ト世界ニ公布スルヤ一瀉千里ノ勢ヲ以テ各國ノ醫術家ニ偉大ナル刺激ヲ與ヘ相競ツテ研究スル結果今ヤ或程度ノ結核ハ正當合理的ノ醫術ヲ施セバ治癒スルヲ得ベシトハ諸大家ノ輿論ナリ故ニ可及的初期ニ發見スルコトハ必要ナルノミナラズ醫師ノ重大ナル責任トス依リテ不肖訥辯ヲ顧ズ貴重ノ本席ヲ汚シ暫時御靜聽ヲ煩ハス次第ナレバ御容捨アラシコト乞フ抑モ「フチジス」ハ俗人モ稱フル所ナルモ其ノ初期ニ診斷ヲ附スルハ最モ困難ナリ某大家ハ右肺「フチジス」ト診斷シタルモ某大家ハ左肺「フチジス」ト稱シタリキ特ニ雜業的余輩ニ於テ杜撰多キヲ免レズ彼ノ比較的醫育完全ニシテ專門の開業ナル獨逸國ニ於テモ尙此ノ苦情アルガ如シ即チ學生ニ結核ノ診斷及治癒ノ特別藝能ヲ練習セシメンガタメ伯林大學ニハ「クルシマン」教授及「ゲルハルト」教授ガ「グラボーセー」療養院ヲ擔任シテ其ノ目的ニ從事セラレツ、アルヲ視テモ如何ニ必要的事業ナルカヲ斷定スルコトヲ得

一、可及的早ク診斷シテ肺結核ヲ宣言シ一方ニハ自他ノ傳染ヲ豫防シ一方ニ於テハ肺結核ハ初期ニ於テ全治スルノミナラズ第二期ニ於テモ良性ノ結核ハ病理解剖上其他實例ヲ舉ケテ必ズ治癒スベキモノナルコトヲ會得セシメ多

少ノ財産ト時間トヲ犠牲ニ供シ攝生法及加療法ヲ嚴行スル勇氣ヲ與フベシ

二、肺結核ノ早期診斷ニ力メズ若シクハ肺結核ヲ診斷スルモ死ニ到ル迄告ゲサルハ本人ニ對シテ不忠實ナルノミナラズ結核ヲ他人ニ傳搬スル責ヲ免ルベカラズ或ハ肺結核ハ不治ノ疾患ナルヲ以テ之レヲ短刀直入ニ告クルハ死ヲ宣告スルニ等シク病勢ヲ増悪スルト稱スル醫師アレヒ之レ肺結核ノ病理及ビ傳染ヲ知ラサルモノト云フモ敢テ過言ニ非ズ抑モ肺結核ハ病理解剖上七五%内外ヲ示スニ拘ラズ死亡統計ハ十五%内外ナリ之レ事實上六〇%以上ハ治癒ニアラズヤ二三ノ疾病以外悉皆特效藥ナキ今日獨リ肺結核ヲ恐ル、ハ風聲鶴唳ノ醫師ト云ハンカ將タ一時ヲ瞞着シテ患者ノ足ヲ止ムル惡策ナランカ實ニ醫師タルノ責任ヲ知ラサルモノト云フベシ

前述ノ如ク肺結核ヲ早期即チ「クランセル」氏ノ肺結核萌芽期ニ於テ發見スルハ患者ニ對シテ治療ノ幸福ヲ與フルノミナラズ其ノ傳搬ヲ防ギ社會ノ一大幸福ナレバ目下先輩ノ施行セラレツ、アル中殊ニ容易ニ施行スルヲ得ベキ手段方法ノ要点ヲ撮ミ畧述セントス

### 一、咯痰検査法

患者ノ咯痰中結核菌ヲ發見スルハ本患者ノ呼吸器道へ外來ノ結核菌附着シ咯痰中ニ混合シテ咯出セシカ將タ検査中大氣中ノ結核菌検査中ノ咯痰ニ附着スル等ノ異例ヲ除キテハ肺結核ナルコト確實ニシテ最モ有力ナル診斷法ナリ「ウキルヒヨウ」氏ノ如キハ細小氣管支ノ粘膜ハ結核菌ノ占伏スル初期ノ位置ニシテ此ノ原發性結核ガ崩潰シテ氣管支ニ依リ結核菌ヲ排泄スルヲ以テ未ダ理學的症候ヲ呈セサル以前ニ咯痰中結核菌ヲ証明スルコトヲ得ト稱セラル

「ルバルシユス」氏曰ク抗酸性ハ結核菌ノ特徴ナルモ結核菌以外ニ抗酸菌アルヲ以テ單ニ(余輩ハ此際酒精ヲ以テ

脱色ノ有無ヲ檢セリ）細菌検査ニノミ依頼スルハ不正確ナリト報ゼラレタリ

又獨乙肺療養所ノ報告ニ依レバ屢々患者ノ六〇%ハ結核菌ヲ証明スルコト能ハズト云フ  
余輩ガ實驗ニ於テ數回ノ喀痰検査陰性ナルモ肺結核ナルコト明了ナルコトアリ或ハ數ヶ月後「フチジス」ノ諸症ヲ呈スルコトアリ故ニ細菌検査ニノミ依頼スルキハ不意ノ誤謬ヲ來スコトアルベシト信ズ

## 二、舊「ツベルクリン」診斷法

イ、「ツベルクリン」皮下注射診斷ハ結核病毒ヲ結核病竈ヨリ他へ散亂セシメ他部ニ結核ヲ續發ストノ反對說アル  
モ本法ハ結核竈廣大ニシテ著明ナルモノハ他ノ理學的診斷法ニ依リテ診定セラル、モノナレバ本法ヲ施用スル  
ノ必要ナク又病竈著明ナルモノハ少量ノ診斷用「ツベルクリン」ニテハ粟粒結核ヲ來ス憂ナシ余輩ハ舊「ツベル  
クリン」〇、五%液〇、〇一〇、〇二液ヲ注射シ爾後毎二時間檢温スルコト三十時間ニシテ反應ナキキハ二三回  
ヲ反覆シ尙ホ反應ナキキハ他ノ方法ヲ用フ又陽性ナルモ精神過敏ナルモノハ蒸溜水注射ニテモ發熱スルコトア  
リ甚シキハ單ニ注射針ヲ挿入スルノミニテモ發熱スルノ報告アレバ本法モ確實ナリト云フベカラズ

ロ、「ツベルクリン」点眼診斷法ハ極メテ簡易ニシテ患者ノ意ヲ問ハズシテ施行セラル、良法ナリ然レモ結膜炎ニ  
罹リタル患者及一眼疾患者ハ結膜反應タル充血潮紅腫起等ノ炎症ノ狀況ヲ對照スルコト能ハズ故ニ完全無缺ノ  
良法ト云フベカラズ余輩ガ本法ヲ施行シタルハ昨年中旬ニシテ最初入院患者六名院内ノ職員及ビ余ガ家族  
合セテ三十一名ニ一%ノ舊「ツベルクリン」一眼ニ一滴宛点眼セリ患者六名中二名ノ肋膜炎患者ニハ反應ヲ呈シ  
タルモ四名ノ重症肺結核患者ニハ反應ナシ然ルニ健全ノ外見アル看護婦一名本反應アリ爾來攝生法等ヲ命ジ執  
務モ隨意的ニナシタルモ二三ヶ月后漸次肺結核症狀ヲ呈シ五ヶ月計リテ經テ全身肺結核病狀ヲ呈シ十ヶ月計リ

ニテ鬼籍ニ就キヌ醫員一名事務員一名ハ理學的診斷上肺結核ヲ証明セラル、モ本反應陰性ナリ爾來今日マテ殆  
ド百名内外ノ人々ニ就イテ檢診スルニ著明ナル結核ニハ反應稀ニシテ又本反應ヲ煩ハス必要ナキヲ以テ目下疑  
アル患者ノミ施用スルコトトス

ハ、「ツベルクリン」皮下接種法即チ上膊三角筋ノ内側皮下へ舊「ツベルクリン」五倍稀釋液ヲ二三ヶ所ニ一滴宛恰  
モ種痘スルガ如ク接種スル法ニシテ佐多博士ハ東京醫事新誌第一五二八號ニ詳細ニ書載セラレ余等ノ如キ小實  
驗者ノ之レニ一矢ヲ試ムルノ資格ナシト云ヘ凡余輩思ヘラク本法試藥ハ濃厚ナルヲ以テ点眼試藥ノ如ク毎日調  
製スルノ煩ナシト云ヘ凡被試驗者ニ一々承諾ヲ受クルノ煩アリ又「ゴイユール」氏ハ結膜反應ハ現存結核ヲ示シ  
皮膚反應ハ潜伏結核ヲ示スモノナリト云フ

二、「ツベルクリン」内服法、「ツベルクリン」〇、〇一ヲ殺菌膠囊ニ入レ服用セシメ爾后毎二時檢温スル法ナリ本  
法ハ患者ノ意ヲ引クコトナク容易ニ施行シ得ル良法ナリト云フモ余輩ハ確法ト信スルコト能ハズ何トナレバ  
内服ハ消化器ノ狀況及内容物ノ如何ニヨリ注意スベキコトアリ前述ノ「ツベルクリン」診斷法ハ本患者ノ結核病  
ナルコトハ証明スルコト得ルモ身体中何レノ結核ナリヤ診定スルノ必要アリ又健全ノ身体ニ於テモ反應ヲ呈ス  
ルコトアリ故ニ其他ノ方法ヲ講シ可及的慎重ノ診斷ヲ要スルモノナリ左ニ先輩諸彦ノ報告ヲ記シ且ツ余輩ガ實  
驗ノ一二ヲ補記スル事トス

一、既往症ヲ詳細ニ尋問スルハ勿論ニシテ本人ノ居住ハ嘗テ結核患者ガ居住セシコトナキヤ否ヤ又居宅ノ採光換氣  
ノ状態同僚中結核患者ノ有無ヲ審ニスベシ

二、自覺症朝起時ノ倦怠不眠運動后ノ發汗心悸亢進呼吸ノ状態疲勞ノ有無盜汗消化不良体重減少月期減少精神状態

ノ如何ヲ尋問スベシ其他寒熱ノ有無咳嗽咯痰等ノ第二期症狀ハ本問題外ナリ

### 三、血行器障害

イ、脈搏ノ増加スルハ初期特徴ノ有力ナルモノニシテ特ニ働作後ハ脈性浮搖性ヲ呈シ微細頻數トナル之レ血壓低下ヨリ來ル特徴ニシテ「コルフワン」氏ハ百名中只動脈硬化アル患者三名ノ外悉皆低下セリト云フ佛流ノ醫家ハ血壓低下ハ初期肺結核ノ特徴トシ健体血壓ハ水銀柱百二十ミリメートルトナルモ肺結核患者ハ病症ノ狀況ニヨリ低下シ甚シキ時ハ五〇、一八〇、ニ下行スルコトアリ余ノ如キハ小數ノ實驗者ナルモ本徵候ニ重キヲ措キ病性ノ輕重豫后ノ良否ヲ診定スル指南針トセリ

ロ、心臟肥大及肝臟肥大ヲ初期結核ノ特徴ナリト報告セラレタル人アリト雖モ「ヒツオート」氏ハ肺結核患者ノ死屍ヲ剖見スルニ心臟萎縮ハ常ニ存スルモノト斷定セリ

「ブリーメー」ル氏ハ狹小ナル心臟ヲ以テ肺結核ノ原因ト見做スベキモノナリト確言セリ

「フオンリービッヒ」氏ハ低下血壓不正視脈膊ハ結核素質ニシテ初期結核ノ特徴ナリト云フ余思ヘラク結核毒素ノ爲メ心臟ハ求心的肥大トセシモノト

### 四、貌診的診斷

イ、顛顫動脈ノ擴張、「チラコフ」氏ハ顛顫動脈ノ擴張ハ氣管支腺ノ腫起スル反證ニシテ初期結核ノ特徴ナリト云フ此ノ特長ハ幼年時代最モ著明ニシテ本徵候ヲ呈スル小兒ハ屢々腦膜結核ヲ發スルコト余ノ實驗スル所ナリ然レモ肺結核早期診斷トシテ特別ノ價値アリヤ否ヤハ尙ホ疑問ノ中ニ存ス「チラコフ」氏ハ兒童四十七人ノ中顛顫動脈擴張ヲ呈スルモノ十四人ハ多少肺部ニ故障ヲ有セリト云フ

ロ、「オヘレンド」氏ハ第七頸椎第一胸椎ノ棘狀突起部ニ小靜脈怒張ヲ存スルモノハ早期肺核診斷ニ必要ノ件ナリ之レ結核性胸内淋巴腺腫ノ爲メ肋間靜脈ニ壓ヲ加フル爲ナリト云フ大谷博士ハ第二胸椎棘狀突起部ニ呼氣延長打診音疑縮ハ肺結核ノ初期ト稱セリ

「ナイセル」氏ハ第二胸椎棘狀突起ヲ按觸シ或ハ打敲スルキハ疼痛ヲ訴フルハ氣管支腺ノ結核性腫起ニ起因スルモノナリト稱ス「ローレンツ」氏ハ脊柱ノ運動時ニ多少ノ疼痛ヲ訴フルハ肺結核ノ初期ナリト稱ス

ハ、瞳孔ノ左右不同ヲ呈ス之レ肺炎疾患及縱隔洞ノ淋巴腺腫起スル患者ハ深呼吸ヲ命スルキハ該側ノ交感神經ニ壓迫ヲ加ヘ瞳孔散大ヲ呈スルモノナリト云フモ余輩ガ實驗ニ於テ早期診斷トシテノ價值ヲ疑フ

ニ、小乳房及副乳「ゾルマー」氏ハ乳頭及乳腺ノ比較的小ナル一側ニ於テハ肺結核ノ存在スルコト多シ特ニ先天的小乳ノ人ハ肺結核ノ素質ヲ有スルモノト稱セリ余ガ實驗ニ於テ本法ハ早期診斷トシテ價值如何ハ疑問ニ屬スルモ第二期以上ノ肺結核患者ニ於テハ大ニ關係ヲ有スルモノナリ副乳ヲ有スル人ハ肺結核ニ罹ルコトアリト稱スルモ余輩ハ副乳ヲ有スル人僅ニ二人ヲ實見シタルノミニテ何等ノ意見ナシ

ホ、頭髮ノ密生スルハ肺結核ニ罹ルコト多シト稱スルモ頭毛密生スル年齡ニ本病多ク存スルハ年齡ニ關係ヲ有スル疾患ニシテ頭毛有無ニ關係セサルガ如シ

ハ、「ベルツ」氏ハオブ毛ノ密生スル人ハ肺結核ニ罹ルコト多シト余ガ實見ニ於テモ屢々見ルコトアリ然レモオブ毛ノ磨滅スル程働作セサルモ一因ナラン

ト、「リトンプリン」氏ハ急性肺結核患者ノ齒齦ハ紅色腫起ヲ呈シ慢性結核患者ハ蒼白色ト稱ス抑モ齒齦ハ營養狀態ヲ診斷スル際及或疾患ノ中毒狀況ヲ診斷スル際等ニ有力ナル價值アルガ如ク肺結核ニ於テモ注意ヲ拂フベキ

價値アルモノト信ズ

チ、余ハ嘗テ腋臭ト耳漏トノ關係ニ於テ論セシコトアリ今ヤ腋臭及耳漏患者ハ肺結核ト密接ナル關係ヲ有スル實例少シトセズ他日私見ヲ報道セントス

リ、「ナイセル」氏ハ食道ブージヲ挿入スルキハ肺根ニ存スル淋巴腺腫起患者ハ鈍痛ヲ呈スルニ依リ早期診斷ニ價値アリトノ報告アルモブージ挿入ハ一般患者ノ歡迎セザルノミナラズ歐米人が報告セラルガ如ク本邦人モ最初淋巴腺結核次デ肺結核ヲ起スコト多キヤ疑ナキ能ハズ余ガ本法ヲ施行スルコト少數ナルモ亦餘リ信ヲ措カズ又、其他神經痛殊ニ頂背部ノ鈍痛ヲ初期徵候ト報告アルト云ヘ凡日本知人ハ頂背部ニ鈍痛ヲ訴フルハ多數ノ例ヲ認ムル處ニシテ初期診斷ニ價値アリト貴ブベキ程ニアラサルベシ

ル、「レントゲン」氏ハ光線ヲ應用セラレタリトノ報告アリト云ヘ凡余未ダ之レニ接見シタルコトナシ以上陳述スル如ク早期診斷トシテ完全無缺ノ方法ナシト云ヘ凡各方法ヲ候鯖シ叮寧慎重ノ態動ヲ以テ診斷スルキハ比較的初期ニ於テ發見スルナラント信ズ。

